

## 『新しい時代の幕開け』 (要旨)

聖書箇所：マタイ 3:13～17

## 【1】「時」を見逃さないこと

ヨハネは、往年の預言者のように妥協なく神のことばを宣告しました。ある者はらくだの毛ごろもを身にまとい豪胆に悔い改めを迫る様を見て「傍若無人な世捨て人」と評したことでしよう。たしかに彼は人目を気にすることはありませんでした。しかし誰よりも慎み深くありました。誰も注目しなかった「ナザレ人」にうやうやしく頭を下げました。ヨハネには弟子がいましたが、「私こそ、あなたからバプテスマを受ける必要がある」(14)と表明しました。目の前にいる人物が何者であるかを見抜いたからでした。それは洞察力が秀でていうことではなく、「母の胎にいる時から聖霊に満たされ」(ルカ1:15)ており、聖霊に示されたからでした(参照:ルカ1:41)。ヨハネはイエスの洗礼を契機に表舞台からフェードアウトしていきます。

彼は「時」を見逃さず「さらに力のある方」(11)の到来を人々に指し示しました。

## 【2】バプテスマを受けられたイエス

ヨハネはイエスが洗礼を希望されたことに戸惑いました。イエスに罪を見出すことができなかったからです。しかしイエスの答えは「今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにふさわしいのです」(15)というものでした。イエスのバプテスマには次の意義がありました。

まず、イエスのメシア(救い主)としての公生涯が洗礼によって人々に周知されました。

次に、洗礼はイエスが罪人の立場に立たれたことをあらわしました。「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあつて神の義となるためです。」(IIコリント5:21)

イエスには十字架で私たちの身代わりとなり、罪を負うという使命がありました。そのために罪ある人間の立場に立たれたのでした。

## 【3】新しい時代の幕開け

イエスの洗礼後、天から声が聞こえました。

「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」(17)。このことばは、「メシア」について

語る旧約聖書(詩篇2:7, イザ42:1)を思い出させます。イエスがダビデ王家に属する「王」であるメシアであること。そして苦難を受け人々の罪を担う「しもべ」であるメシアであることです。

公生涯に入られたイエスは、時の人となりました。ヨハネに付き従っていた人々が次々にイエスに従うようになりました。ヨハネの弟子たちはそうした変化を悲しく思いました(ヨハネ3:26)。しかしヨハネは「あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません」(ヨハネ3:30)と、イエスに人々がついていくことを喜びました。

福音書の記者マタイはヨハネ、そしてイエスについて「そのころ…現れた(来られた)」(3:1,14)と記します。まずは、ヨハネが「現れて」地ならしをし、そしてイエスが「来られた」のだと。ヨハネは先に遣わされた者として自分の役割を全うしたので喜ぶことができたのです。

「新しい時代」という時に、新旧の勢力争いに発展するのが世の習わしです。しかしヨハネは自分の弟子の言葉に翻弄されるのではなく、イエスとともに天からの声を聞き、大いに喜びました(ヨハネ1:33)。

▷過去に出来たことが出来なくなる「衰え」は、一般的に悲観的に語られます。しかし神を自分の主と認める時、「衰え」は主が自分に託された一つ一つのことを主にお返しすることだと受けとめられるようになります。この地上で主から託されたものを喜んで主のために使い、主から与えられた良きものを主にお返しし、父の家に住む備えをしていけたらと願います。

「はるかに仰ぎ見る 輝きの御国に  
父の備えましし 楽しき住処あり  
われらついに 輝く御国にて、  
きよき民と 共に御前に会わん」  
(新聖歌517番1節)

